

世田谷区砧町に住んで区立船橋小学校に12年間勤務。東北沢、下北沢駅を利用していた北沢小は10年。柿生に移り住んでからの砧小が8年。祖師谷大蔵成城学園前駅を利用していた祖師谷小も8年間。そして京西小と豪徳寺駅を利用していた松沢小へと教員生活は小田急線と共にあり、道で、お店で、電車で、屋台で、遭うたび教え子は大きく成長し、夢も語ってくれる。

平成8年 成城ハイム前からのスケッチ時に、小田急全駅を描きたいなと子どもたちに語った小さな夢が、退職と共に古里盛岡に帰郷する計画と重なり、乗り換えの豪徳寺駅からスケッチの旅はスタートしました。この駅は手摺りのある石段から改札口へ行くアプローチや多摩川玉石の石積みの崖のような壁、トイレに行く細い通路、駅周辺にはあそこも、ここもという風を楽しめる画題がたくさん見付けられます。どの駅にも無意識に利用するところ程、楽しい会話や人生の匂い嬉しこびがあります。小田急線に乗って40数年。たくさんの思い出の沿線風景が複々線化にともなう高架作業の進む車窓より語りかけて来ます。

ひと駅描き終え「隣の駅はどんな…？」と続ける内に新宿西口広場のスケッチから町田駅南口広場までの27駅を描いてました。同僚は、乗りすごしたようにもっと先へ行きなヨといいます。そしてお世話になった小田急沿線新聞社の石川さんにも元気づけられ、小田原駅まで光や風、町の声を感じながらの47駅(70枚)のスケッチにまとめることが出来ました。諸氏皆様方のお陰と感謝致して居ります。甥の横山寿和・佳和・英和氏の三兄弟が最終的に美的に編集してくれました。白から銀へと変貌を遂げた小田急の発展と快適な通勤通学、無事な旅の喜びを祈念申し上げます。

平成17年8月吉日 合掌 重 茂 佳 伸

